

事例：No. 11

伐採と再生林の「一貫作業システム」の推進に向けた取組

1. 林業事業体等名

かぶしきがいしゃ ささき き ふおれすとりにー
株式会社 SASAKI FORESTRY

(宮崎県児湯郡木城町)

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 20,000^m (うち間伐の占める割合20%)
- ②生産する主な樹種 スギ・ヒノキ
- ③素材生産に関わる作業員数 14名 (主伐班1セット5名×2セット)
(造林班1セット2名×2セット)

3. 取組の特長

充実した森林資源と木材需要の拡大を背景に、経営の安定・強化を図るため、伐採と再生林の「一貫作業システム」による循環型林業の確立を目指している。

効率的な木材生産技術の習得及び木材生産力の強化に向けて、平成29年度に0.7^mクラスのハーベスタとスイングヤーダ(グラップル付)を導入している。

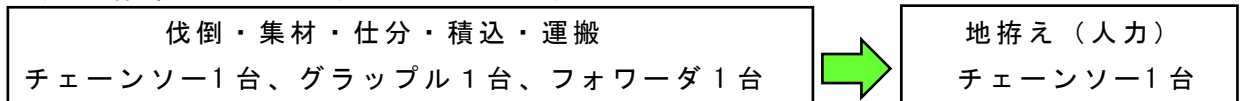
また、令和元年には台風により大規模な被害を受け、風倒木処理をはじめ路網整備の効率化が図れるようフェラーバンチャ付きグラップルバケット(以下「フェラーバンチャ」)を導入している。

なお、作業工程ではハーベスタによる造材作業が最大化するよう、集材の効率化に努めている。

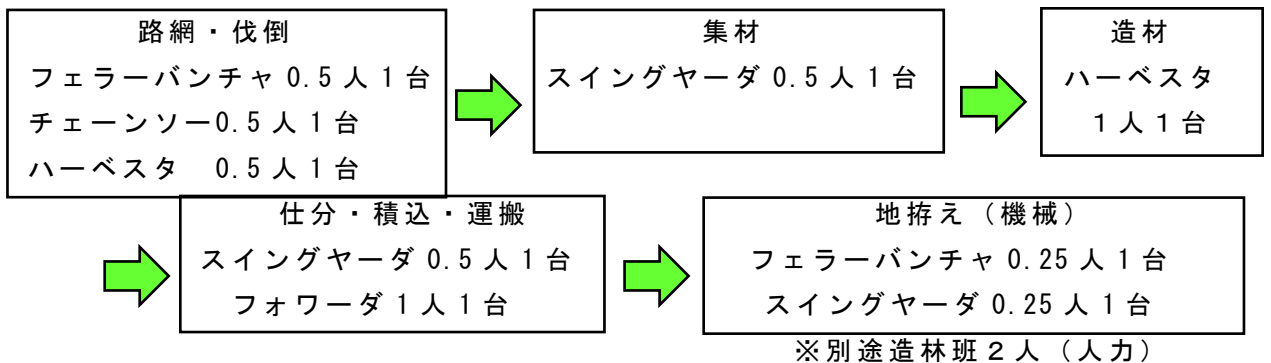
4. 具体的な内容

- ①施業方法：高性能林業機械を活用した作業効率の向上
- ②使用機械：ハーベスタ1台・スイングヤーダ(グラップル付)1台
・フェラーバンチャ1台・フォワーダ(6t)1台
- ③作業システム：

1) 旧作業システム(2人/セット)



2) 新作業システム(主伐班5人/セット)



- ④ 森林作業道の作設方法：作業効率と安全性を考えた路網配置としている。
 ⑤ 労働生産性及び素材生産コスト：

主伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)
	4.5	3,500	8	2,500
地拵え	ha 人役 (人/ha)	コスト (円/ha)	ha 人役 (人/ha)	コスト (円/ha)
	23	350,000	6	120,000

主伐の労働生産性は約 80% 向上、地拵えのコストは約 70% 削減している。

5. 今後の取組等

“森林所有者への利益還元”と事業体の経営基盤の強化・安定が達成できるよう以下の取組を強力に推進することとしている。

- ① 森林施業の集約化の推進及び路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの推進
- ② 人材の育成・確保に向けた労働環境の整備・雇用条件の改善
- ③ エリートツリーの植栽による下刈の省力化
- ④ スマート林業の取組による現場作業の効率化



【フェラーバンチャによる伐倒】



【機械地拵え】

【問い合わせ先】

所属：宮崎県児湯農林振興局林務課
 役職・氏名：主幹 宮原 久光
 連絡先：0983-22-1350